

知床横断道路も例年になく早く開通しました。今年の5月は暑かったり寒かったりと寒暖の差が激しく、体調を崩した方も多かったのではないのでしょうか。

新学期が始まってから2ヶ月が過ぎました。それぞれの園・学校では、年度初めの計画を立て、教育目標実現のために歩み出しました。

今回の「もやい」は、各園・学校の今年度の特に取り組む重点等を掲載しました。

それぞれどのようなところに力を入れて教育を進めていこうとしているのかが、おわかりになるのではないのでしょうか。是非参考にさせていただきたいと思えます。

アメリカの先生たちが やって来る

今月末、羅臼の町にアメリカ人の先生が10名やって来ます。すでに各学校から説明があったかも知れませんが、これは「ESD日米教員交流プログラム」という事業によるものです。この事業は日米両国政府が実施しているもので2009年から始まり、今回で8回目を迎えます。

日米両国でESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいる先生方や教育行政職員を選抜して互いの国を訪問するプログラムでやって来るのです。日本からも同じ数の先生たちが4月末に米国を訪問しています。そして、経験の交流や意見の交換などを行い、共通の課題への取り組み交流のきっかけにすることが目的です。

この交流事業では互いの首都と地方都市の学校を訪ねます。今までに、米国内の多くの都市が選ばれてきました。日本側でも熊本県水俣市、島根県大田市、石川県金沢市などが訪問先となりました。そして、今年度は羅臼町が訪問都市として選ばれたというわけです。

○なぜ羅臼なのでしょう

では、なぜ羅臼町が選ばれたのでしょうか。

理由の第一は羅臼町内の全学校がユネスコスクールであり、町を挙げてESDに取り組んでいるからです。一つの町のあらゆる教育機関がユネスコスクールになっている例は、羅臼以外にまだありません。もう一つの理由は、恵まれた自然環境を最大限に活かし、知床のために学び行動する人材を育てる「知床学」が、全国的に注目されているからです。

○どんな先生がやって来るのでしょうか

今回羅臼町を訪れる先生方は男性4名、女性6名の合計10名で全米からやって来ます。校種も幼稚園から高校まで様々。幅広い年齢層です。環境教育を実践する理科教員が多く、水質や外来種などの環境問題、地元の生態系について取り組んでいる人が多いです。

一方、貧困や飢餓、ジェンダーの平等、文化の多様性に取り組んでいる先生もいます。

○日程は4泊5日です

訪問の日程は以下の通りです。

25日（土）15時 到着。役場2階の庁議室で歓迎式。その後ホームステイ先に分散

26日（日）夕方「羅臼の宿まるみ」に集合

27日（月）午前中、春松幼稚園、春松小学校を訪問。春松小学校で給食を体験。

午後は羅臼高校を訪問。その後ルサフィールドハウス見学。

28日（火）午前中、ビジターセンター見学。羅臼中学校訪問。羅臼中学校で給食。

午後は郷土資料館に移動して見学とアイヌ伝統文化の体験。

夜はレセプションを開催し、関係した人々とお別れの会を催します。

29日（水）知床ウトロ学校と斜里高校を訪問して女満別空港から帰路につきます。

ホームステイは、町内の10軒のお宅にお願いしました。それぞれ多忙時期で、ご都合もあつたことでしょうか多くの方に協力し頂くことができました。この場をかりてお礼申し上げます。

○どんなことが期待できるでしょう

人を成長させる最大の原動力は出会いです。いかに多くの出会いを経験するか、そして出会う人々がいかに多様かが豊かな人格を育てるのではないのでしょうか。

日本は島国で、異文化、異言語と接する機会は少ない方です。海外から来日する人は増えていますが、地方に住んでいると残念ながらまだまだその機会は多くありません。

「教育」という単一テーマで羅臼町を10人もの方が訪れるのはめったに無い機会です。

遠来のお客をもてなすという意味だけではなく、自分たちが成長する大きなきっかけとなるよう、この行事に積極的に関わって頂きたいと思えます。

平成28年度 羅臼幼稚園の教育

<企画編>

教育要領に基づき、将来良き社会人としての素地を養い、豊かな感性や自立心を育成し、幼児一人ひとりの望ましい成長を促し、豊かな人間性やたくましさの育成など「生きる力」の基礎を培う教育の実施・改善

1、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼稚園教育という観点で幼小の円滑な接続を推進します。

- ・幼稚園と小学校との交流活動を一層深化させ、互惠性のある円滑な接続を推進するために、互いの教育を理解し見通す「連続性・一貫性」を捉えた接続カリキュラムの編成実施
- ・家庭や地域社会、自然とのかかわりを通して、園児が共に育ち合う体験活動の充実
- ・数の概念や言葉の概念について、充実した広がりのある活動を推進
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動と歯磨き指導を推進

羅臼小学校との連携計画

- ・5月 1年生と年長組による対面式
- ・7月 「なかよしタイム」で遊ぼう
- ・8月 夏休みの児童作品展見学
- ・11月 2年生と「焼きイモ」交流
- ・12月 5年生総合学習授業と交流
- ・3月 授業見学



2、正しい言葉遣いと語彙集を増やす取り組み

読み聞かせと親子読書のすすめを～読み聞かせの効果、それは大人との信頼関係の構築「お母さん読み聞かせ」の実践。

- ・PTA文化部のお母さんをお願いして、交替で園児に絵本や紙芝居の読み聞かせ
- ・お母さんの読み聞かせ 各学級 年間15回（各学級月1回）
- ・絵本の集い（図書室の主催で「絵本講演会」を実施）
- ・移動図書館車「かもめ号」の活用

3、食べることが喜びにつながる食指導を…

食の乱れが健康に及ぼす影響と食育の重要性

「食べる」ということを通して、先生と子ども、子ども同士のつながりを深め、生活を豊かにすることを視野にいれ、正しい食習慣を身につけて将来にわたって豊かで健康な生活の基礎を身につける援助をする。

食育のめあて

- ・お腹がすくリズムの持てる子ども。
- ・食べたいもの、好きなものが増える子ども。
- ・一緒に食べたい人がいる子ども。
- ・食事づくり、準備にかかわる子ども。
- ・食べ物を話題にする子ども。



重点目標

「元気な子」「やさしい子」「がんばる子」の子ども像をうけた重点教育目標として

元気よくあいさつができ、なかよく遊べる子とする。

春松幼稚園は、春松地区・峰浜地区の5保育園を統合して新設された。新設して9年が経過し、どの子ものびのび仲良く生き生きと園生活を送っている。

重点教育目標は、引き続き「元気よくあいさつ」「なかよく遊ぶ」とする。「元気なあいさつ」は基本的な生活習慣の中でも最も基本とすべきものであり、人間関係づくりにおいても基底となるものである。園児がこれから生涯にわたって生きていくうえでの最初に身につけるべきこととして「元気なあいさつ」を考え、それにより人とのつながりが豊かに始まることを願っている。

また、春松幼稚園区の幼稚園・小学校・中学校の共通の取り組みとして「元気なあいさつ」が設定され、羅臼町PTA連合会の共通スローガンとして、平成22年度から重点的に取り組むこととなった。人間関係づくりの重要な第一歩として、気持ちよい一日の始まりとして、「あいさつ」をしっかりと子どもたちに身につけさせたいと考える。

さらに、だれとも「なかよく遊ぶ」ことも重要であり、幼稚園教育の重視すべき基底である。幼稚園教育の本質である「豊かな体験」の中核となるのは「遊び」であり、たくさん子どもたちとのかかわり体験が重要である。身の回りの人や様々なことと「かかわる」力を伸ばす上で「遊び」を重視し、豊かな遊びをどの子にも実現したいと願う。

それにより、『生きる力』の最も基礎を育てる、幼稚園教育の目標に迫ることが出来るのではないかと考え重点とした。これをもとに5領域の指導の観点をおさえ、各領域のねらいと指導内容を重点化した指導計画の作成につとめ、めざす子ども像に向かって指導を進めたい。

今年度の重点

1 みんながつながる“あいさつ”“ことば”を重視する

○幼・小・中・高一貫したとりくみ「元気なあいさつ」の徹底を図る。

○つながりを広げる言葉を身につけ、「伝える力」を育てる。(教師の意識的な取り組み)

2 のびのび体を動かし、しなやかな身体づくりを意識する

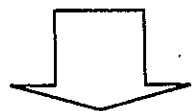
○楽しくたっぷりと体を動かし、身体づくりにつながる遊びを工夫して取り入れる。

○生活に必要な基本的な習慣や行動、態度をしっかりと身につけさせる。

3 家庭・学校・地域とたしかにつながる

○保護者との連携を大切にし、共に子どもの自己肯定感を高める。

○小学校との連携で、遊びから学びの円滑な接続を図る。(園で育てることを明確化して)



どの子もたしかに育つ 特色ある“春松ならではの”幼児教育をすすめる

■個に応じた確かなみとりと、全職員での共通の適切な援助。

■ふるさとの特色ある自然や人・もの・こと等の環境を活かし、豊かな体験活動を。

平成28年度 羅臼小学校

学びの視点

学力の向上

- 1 基礎学力の定着
 - ・「学びタイム」(放課後全員学習)の実施
 - ・アフタータイム(自主的な参加)の実施
 - ・朝のドリル学習と読書の時間の設定
 - ・夏、冬休みの学習会と長期休業後の実力テストの実施
 - ・補充学習の充実と保護者との協力(個別、放課後、土曜授業、宿題、家庭学習、保護者の○付けの協力など)
- 2 先生の授業力向上
 - ・わかる授業の研究と研修
- 3 小中高連携した「学習のきまり」

基本的な生活習慣の定着

- 1 いい顔 いい声 いい動き
 - ・児童：いい顔いい声いい動き発見カード
 - ・青少年赤十字(JRC)活動
 - ・思いやりの標語運動
- 2 異年齢集団の組織活用
 - ・たてわり活動(清掃、運動会など)
 - ・実行委員会活動
- 3 生活アンケートの実施
 - ・集計・分析し、保護者への公表と改善
 - ・個人面談週間の設定と実施
- 4 小中高連携した「生活のきまり」

健康・安全教育の充実

- 1 食育
 - ・給食指導、フッ化物洗口、歯科指導
 - ・肥満指導
- 2 生と性の学習
- 3 体力の向上
 - ・スポトラタイム(中休み3分間運動)
 - ・全学年オーディネーショントレーニングの実施
 - ・全学年新体力テストの実施
- 4 保健便りの発行・指導
- 5 早寝・早起き・朝ご飯運動の推進
 - ・生活リズムチェックシートの保護者との活用
- 6 避難訓練の実施
 - ・火災・地震・津波対応の訓練
- 7 安全意識の醸成
 - ・安全指導、子ども110番の家訪問
 - ・不審者情報の発信と対応

外国語活動・総合的な学習の時間の充実

- 1 外国語活動(英語活動)
 - ・ALTの活用
 - ・教材の工夫と評価等の実践研究
- 2 ふるさと学習
 - ・地域素材・人材・施設の活用(土曜授業日を含む)
 - ・学びの連続
 - ・羅臼幼稚園・羅臼中学校との連携
 - ・北方領土学習の充実(研究大会の実施)
- 3 情報教育
 - ・情報機器の活用(ICT)の活用
 - ・情報モラル・マナーの指導体制整備
- 4 ユネスコスクール活動
- 5 将来の夢や希望につなげるキャリア教育の充実(小中高の連携)